

挨拶

第54回全日本聾教育研究大会（埼玉大会）実行委員会
実行委員長 桑原智子
（埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園校長）

第54回全日本聾教育研究大会埼玉大会にご参会くださりありがとうございます。ご来賓として文部科学省はじめ、埼玉県教育委員会、関係する皆様をお迎えし、また、関係機関からご後援・ご協賛を賜り、Web開催に変更して開催できますこと、実行委員長として心より感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けましたが、記念講演、授業研究分科会、研究協議分科会を縮小せず進めましたところ、約1,500名が参加する大会へと変化を遂げることができました。授業研究分科会は7分科会、研究協議分科会は14分科会設定し、参加者の様々なニーズに応えることができ、さらにWeb開催に変更した結果、全国の会員が参加しやすくなりましたことも本大会の魅力となっております。

主管校である大宮ろう学園と坂戸ろう学園が、新たな挑戦に立ち向かうことができましたのは、埼玉だからこそできる大会を目指した表れでもあります。特に、全国各地区との接続練習において会員の皆様と繋がることができ、研究体制に変革をもたらすことができると実感できましたことが大きな励みとなり、今日を迎えております。

大会主題は、「自ら学びを深め、たくましく生きる力を育むろう教育」です。3年間、助言者から専門性の高い、熱心な指導を受けてまいりました。この場をお借りして、関係する皆様にご支援をいただきましたこと御礼申し上げます。大会直前とはなりますが、各校に「研究のまとめ」を発送しておりますので、どうぞご覧ください。埼玉県は幼児児童生徒数に恵まれ、大宮ろう学園は175名、坂戸ろう学園は96名、多様な集団活動が設定できる特徴があります。自ら学びを深めるために工夫した授業づくりやたくましく生きる力を身に付けるための教育実践を、授業研究分科会を通じてお伝えしたいと思っておりますので、忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

結びに、今日に至るまで、オンライン大会経験者やICT専門家から何度も指導助言をいただき、改善を重ねてまいりました。そして、全国聾学校長の皆様、関東地区聾学校及び聴覚障害教育に携わる皆様のご理解とご協力を得て、専門性の高い研究レポート発表や授業動画の配信も実現できました。本大会を通じて、全国の会員が情報共有及び意見交換を活発に行い、聴覚障害教育における専門性の共有、継承、発展が図られますことを祈念し、挨拶といたします。